

港包装株式会社

清水港の地域産業である缶詰ラベル包装に係る 工程改善事業

具体的な事業内容

熟練工の作業を自動化する製造設備を新規に導入。ライン増強により製造能力を大幅にアップさせるとともに、作業精度を向上させた。さらに生産性向上により生み出された時間を若手への技能伝承に充当し、持続可能な生産体制を構築。地場産業の活性化に寄与する。



本社

会社概要

- 社 名：港包装株式会社
- 代表者名：代表取締役 市川和芳
- 所在地：〒424-0037 静岡市清水区袖師町885-1
- 取材地：同所在地
- 設立年月：昭和35年9月
- 業 種：缶詰ラベル包装業
- 資本金：10,000千円
- TEL：054-367-5111
- URL：<https://minatopackage.jp/index.html>



取り組みの経緯



1号缶は大きくて重いため手作業でのラベル貼り付けは重労働

1号缶ラベル包装業務を 継続させるために

港包装株式会社が本社を置く清水港エリアは、国内での缶詰ラベルの包装業務の国内シェア 95%を占める。同社が創業した昭和 35 年には、同業他社が周辺に 10 社以上存在し、清水港周辺地域の産業として成長してきた。しかし缶詰の製造プロセスが海外へ移転するのに伴いニーズが減少し、現在は 3 社となっている。

それでも、現在主流となっている缶への直接印刷は、小ロットではコスト高となるため、ラベル包装へのニーズは依然として一定数ある。また、缶への直接印刷では出せない質感を求めて、あえてラベル包装を選択する事業者もいる。

こうした国内需要にわずか 3 社で対応するには限界があることに加え、1 号缶と呼称される大型缶への包装が可能なのは国内で同社のみであり、さらに負荷がかかっている。

1 号缶のラベル包装は加工効率が悪いと、廃止も検討したが、取引先の強い要望を受け、1 号缶の包装工程を中心とした効率化を目指し、本事業に取り組んだ。

取り組みの内容



導入した半自動ラベラー

新設備導入により 生産体制の改善を図る

同社の缶詰ラベル包装業務は、ラインに配置された社員が担当して作業する体制となっている。ラインには、熟練工が缶の形状に応じて機械をチューニングしながら進める工程があり、熟練工の不在時にはラインを動かさないこともある。その対策として確立している緊急時対応ラインは完全手作業によるもので、処理能力に限界があった。

そこで、これまで熟練工の技術に依存していたチューニング作業を自動化させたラベル貼付機を導入。ラインの増強に加えて、手作業ラインの稼働を極力少なくすることで生産量の増加を図った。

増加する受注に対応するには熟練工がラインに張り付かなければならず、他作業に時間を割り当てられずだった。導入後は熟練工がラインに張り付く必要がなくなるため、兼任や若手作業員への指導が可能となり、生産ラインの効率化や急務となっていた若手技能者育成の効果も期待できる。

こうした生産体制の改善により加工精度が向上することが見込まれ、取引先に対する信頼性向上につながるようになる。

結 果



一部自動化されたことで難しいチューニング作業が不要となった

生産能力向上と若手技能者育成により 地場産業を守る

チューニング作業を自動化させたラベル貼付機を導入したことで、これまで専任で対応していた熟年作業員の他部署への配置転換や他作業との兼任が可能となった。これにより、熟年作業員による若手作業員への作業技術の指導が進められるとともに、工場全体の工程管理体制が構築され生産ラインの効率化が図られた。

また、1 日当たり 700 ケースの増産と生産量も大幅に向上した。さらに、作業精度のばらつきの解消により不良品が 3 パーセント削減され、納期は平均で 9 日間短縮された。

同社は創業時から、静岡県の地場産業ともいえる缶詰生産の最終工程であるラベル包装業務に取り組んできた。中でも 1 号缶のラベル包装業務は同社しかできず使命感を持って行っている。今回の事業による 1 号缶ラベル包装業務の継続は、缶詰製造業務に関わる多くの企業を守ることに繋がっており、今後も同社の取り組みに注目していきたい。